

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/11/17	50708	大洋薬品工業株式会社	ヘパリンナトリウム	ヘパリンナトリウム	ブタ	中国	有効成分	有	無	無	レンサ球菌感染	OIEホームページ (http://www.oie/eng/info/hebd/AIS_54.HTM#Sec3)	2005年6月、中国四川省にて動物間におけるブタ連鎖球菌感染が拡大した。原因菌はブタレンサ球菌2型。感染症例ピークは7月下旬頃、8月6日以降新たな症例は報告されていない。
											トリインフルエンザ	OIEホームページ (http://www.oie/eng/info/hebd/AIS_59.HTM#Sec2)	インドネシア等東アジア地域でトリインフルエンザH5N1型の感染が蔓延しており、ブタへの感染が認められ、さらにヒトへの感染も生じ、死者まで出ている。
											口蹄疫	OIEホームページ (http://www.fao.oie/eims/upload/191450/fmd_china_empres.pdf)	中国で発生したアジア1型口蹄疫感染が拡大し、近隣国への拡大が懸念されている。
2005/11/21	50709	株式会社第一ラジオアイソトープ研究所	テクネチウム人血清アルブミン	テクネチウム人血清アルブミン	ヒト血液	米国、日本 (H17. 6月初旬より、原産国米国から日本へ切り替え)	有効成分	有	無	無	トリインフルエンザ	厚生労働省ホームページ 2005:437(7062):1108	2005年2月、ベトナムのトリインフルエンザ感染者においてタミフル (oseltamivir) 耐性菌が発見された。患者は予防量から開始し、のち高用量(治療量)投与された。
2005/11/22	50710	日本製薬株式会社	乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン	抗D(Rho)抗体	人血液	米国	有効成分	有	無	無	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省ホームページ H17年4月4日	2005年3月31日の薬事・食品衛生審議会血液事業部会運営委員会・安全技術調査会合同委員会での結論を受けて、英仏滞在者の暫定的な献血制限の方針の経緯、献血者減への影響見込み、輸血によるcCJDの発症リスク、暫定的な措置実施について。予防的観点から、英仏滞在1日以上(1980年～96年)の者の献血を制限するなど。
											C型肝炎	共同通信 2005年4月26日	2004年4月、外科手術で使う血液原料をしたシートの組織接着剤でC型肝炎ウイルスに感染した疑いがある事例。この接着剤は米国で採血された血漿由来で患者から検出されたHCVは欧米に多い遺伝子タイプであった。(2005年4月26日血液事業部運営委員会での報告)
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Paul-Ehrlich-Institut 2005年1月12日	後にvCJDを発症したフランス女性ドナーの血漿が血友病A及び後天性第Ⅷ因子欠乏症などの出血予防及び治療などに用いられる製剤の1バッチに使用された。当該バッチ由来の製品は1997年ドイツ市場に出回っていたが既に回収済みであった。
											C型肝炎	共同通信 2005年5月30日	HCVの混入した血液が日赤のNAT検査をすり抜けて出荷されていた。1999年の高感度検査導入以来、HCVのすり抜けは2例目。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	共同通信 2005年5月30日	献血時のvCJD対策については、H17年5月30日の薬事食品衛生審議会血液事業部会運営委員会の結論をふまえ、予防的観点から英国に滞在1日以上(1980～96年)の者の献血禁止措置を6月1日から開始することを決めた。これによる献血量不足が予想される。
											ウエストナイルウイルス	CBER 2005年6月	FDAは、輸血によるウエストナイルウイルス伝播リスクに対する手段として供血者から「供血後の疾患の報告」または「受血者におけるWNV感染の報告」に基づき成分の回収隔離に関する改訂勧告を提案。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Department of Health 20 July 2005	2005年7月、英国当局はvCJDリスク低減予防措置を強化した。後にvCJD発症の3名に供血した約100名はvCJD伝播の可能性があるため、血液、臓器提供を行わず、手術時等には医師等に通知することが要求された。
											E型肝炎	CDR Weekly 2005;15(30)	2004年イギリス全土の血液センターにより34件の輸血伝播感染症(TTI)の疑い例が報告され、1例のみが輸血によるE型肝炎であると確定された。
											ウエストナイルウイルス	The New England J of Medicine 2005;353(5):460-7	米国で、2003年7月から10月までの4ヶ月に677,603の供血者がミニプールテストによってプロスペクティブに調査した結果183人が陽性、検出率は0.027%であった。WNV感染は、個別テスト陽性でIgM陰性供血で認められ、抗体陽性で個別テスト陽性受血者では認められなかった。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Canadian Blood Service	カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/11/22	50711	日本製薬株式会社	人免疫グロブリン	免疫グロブリン	人血液	日本	有効成分	有	無	無	ウエストナイルウイルス 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 C型肝炎	The New England J of Medicine 2005;353(5):451-9 The New England J of Medicine 2005;353(5):460-7 Hema-Quebec Center Press July 2005 厚生労働省ホームページ H17年4月4日 共同通信 2005年4月26日	米国赤十字の2003-4年のルーチンテストの結果、WNV-RNA陽性の540の供血者のうち362(67%)がIgM抗体が陰性で感染の可能性が最も高かった。148(27%)は個別テストでのみ検出可能で、うち15(10%)はIgM抗体陰性であった。流行期間におけるWNV-RNA陽性の供血者の52%は南カルフォルニアの4つの群の供血者からであった。 米国で、2003年7月から10月までの4ヶ月に677,603の供血者がミニプールテストによってプロスペクティブに調査した結果183人が陽性、検出率は0.027%であった。WNV感染は、個別テスト陽性でIgM陰性供血で認められ、抗体陽性で個別テスト陽性受血者では認められなかった。 カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適切である 2005年3月31日の薬事・食品衛生審議会血液事業部会運営委員会・安全技術調査会合同委員会での結論を受けて、英仏滞在者の暫定的な献血制限の方針の経緯、献血者減への影響見込み、輸血によるcCJDの発症リスク、暫定的な措置実施について。予防的観点から、英仏滞在1日以上(1980年～96年)の者の献血を制限するなど。 2004年4月、外科手術で使う血液原料をしたシートの組織接着剤でC型肝炎ウイルスに感染した疑いがある事例。この接着剤は米国で採血された血漿由来で患者から検出されたHCVは欧米に多い遺伝子タイプであった。(2005年4月26日血液事業部運営委員会での報告)

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Paul-Ehrlich-Institut 2005年1月12日	後にvCJDを発症したフランス女性ドナーの血漿が血友病A及び後天性第Ⅷ因子欠乏症などの出血予防及び治療などに用いられる製剤の1バッチに使用された。当該バッチ由来の製品は1997年ドイツ市場に出回っていたが既に回収済みであった。
											C型肝炎	共同通信 2005年5月30日	HCVの混入した血液が日赤のNAT検査をすり抜けて出荷されていた。1999年の高感度検査導入以来、HCVのすり抜けは2例目。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	共同通信 2005年5月30日	献血時のvCJD対策については、H17年5月30日の薬事食品衛生審議会血液事業部会運営委員会の結論をふまえ、予防的観点から英国に滞在1日以上(1980～96年)の者の献血禁止措置を6月1日から開始することを決めた。これによる献血量不足が予想される。
											ウエストナイルウイルス	CBER 2005年6月	FDAは、輸血によるウエストナイルウイルス伝播リスクに対する手段として供血者から「供血後の疾患の報告」または「受血者におけるWNV感染の報告」に基ずく成分の回収隔離に関する改訂勧告を提案。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Department of Health 20 July 2005	2005年7月、英国当局はvCJDリスク低減予防措置を強化した。後にvCJD発症の3名に供血した約100名はvCJD伝播の可能性があるため、血液、臓器提供を行わず、手術時等には医師等に通知することが要求された。
											E型肝炎	CDR Weekly 2005:15(30)	2004年イギリス全土の血液センターにより34件の輸血伝播感染症(TTI)の疑い例が報告され、1例のみが輸血によるE型肝炎であると確定された。
											ウエストナイルウイルス	The New England J of Medicine 2005:353(5):460-7	米国で、2003年7月から10月までの4ヶ月に677,603の供血者がミニプールテストによって「ロスベクティブ」に調査した結果183人が陽性、検出率は0.027%であった。WNV感染は、個別テスト陽性でIgM陰性供血で認められ、抗体陽性で個別テスト陽性受血者では認められなかった。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文獻	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Canadian Blood Service	カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である
											ウエストナイルウイルス	The New England J of Medicine 2005;353(5):451-9	米国赤十字の2003-4年のルーチンテストの結果、WNV-RNA陽性の540の供血者のうち362(67%)がIgM抗体が陰性で感染の可能性が最も高かった。148(27%)は個別テストでのみ検出可能で、うち15(10%)はIgM抗体陰性であった。流行期間におけるWNV-RNA陽性の供血者の52%は南カルフォルニアの4つの群の供血者からであった。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nature Medicine 2005;11(9):982-5	異常プリオンを正常プリオンで増幅するPMCA法というvCJDの新スクリーニング法をテキサス大が開発し、脳内接種によるスクレイビーハムスターを用いた実験で血液中の異常プリオン検出に成功した。標準的な検出方法で140PMCAサイクルで感度が8600倍上昇、2回連続で繰り返した場合、感度が1000万倍に上昇し、PrPscの8000分子相当が検出可能となった。症状検出前の動物から採取した血液での検出、血漿や分画成分での検出について今後の課題。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Hema-Quebec Center Press July 2005	カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/11/24	50712	明治乳業株式会社	沈降B型肝炎ワクチン(huGK-14細胞由来)	HBs抗原たん白質(huGK-14細胞由来)	ヒトの肝臓	日本	有効成分	有	無	無	トリパノソーマ症	The Weekly Epidemiological Record 2005;80(7):61-4	インドで家畜と密着して作業している40代農夫が2004年9月から感覚異常を伴う発熱症状を示し、WHOの専門家による寄生虫学的検査によって、Trypanosoma evansiにより発症したトリパノソーマと世界で最初に公式に確認された。患者は指の傷口から感染した動物の血液による感染の可能性が考えられる。
											リケッチア症	第57回日本衛生動物学会56S57B05	2004年7月に福井県で感染した紅斑熱患者が、環境要因の異なる南西日本で多発する日本紅斑熱と同一か否か精査したところ、欧州と共通のRickettsiahelvetia(Rh)感染の紅斑熱であることが判明した。Rh感染例としては我が国ひいては極東アジアでの初確認例である。
											ウイルス感染	PNAS 2005;102(36):12891-6	スウェーデンの研究グループはこれまで知られていなかった小児の重症呼吸器感染の原因である可能性が高いウイルスをHuman bocavirusと命名した。小児病棟540名の小児の検体において17名の病因であった。小児において重篤呼吸器感染症の12-39%の原因が同定されていない。
											ウエストナイルウイルス	厚生労働省ホームページ 2005年10月3日	30代の日本人男性がWNV熱に感染し、日本で初の確定例となった。
2005/11/24	50713	セローノ・ジャパン株式会社	精製下垂体性性腺刺激ホルモン	抗FSHマウスモノクローナル抗体	マウス	イタリア	製造工程	無	無	無			
2005/11/24	50714	セローノ・ジャパン株式会社	胎盤性性腺刺激ホルモン	胎盤性性腺刺激ホルモン	人尿	韓国	有効成分	無	無	無			
2005/11/24	50715	セローノ・ジャパン株式会社	精製下垂体性性腺刺激ホルモン	精製下垂体性性腺刺激ホルモン	人尿	中国	有効成分	有	無	無	デング熱	ProMED情報(厚生労働省検疫所海外感染症情報/詳しい情報)	デング/デング出血熱最新情報2005年・中国(香港特別自治区SAR)、情報源:香港News.gov.hk, 4月21日。保健保護局は31才男性のデング熱輸入患者を確定し、今年の患者総数は5名となり、全例が輸入患者である。患者は3月12日から27日までインドネシアへ渡航し、発熱などを3月27日に発症、3月28日に個人病院に入院し、4月4日には退院した。この男性の家族で症状を発症しているものはいない。
											デング熱	ProMed20050511-0020(News gov hk,Hong Kong)	中国保健センターは6例目のデング熱輸入患者を確認した。患者と接触した家族に病気の兆候はない。
											デング熱	ProMed20050624-0030(News gov hk,Hong Kong)	中国保健センターは8例のデング熱輸入患者を確認した。患者と触した者には病気の兆候はない。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用指置	感染症(PT)	出典	概要
											感染	ProMed20050625-006(Taiwan News)	保健省疾病予防センターは2000年以降初のコレラ国内感染患者を確定。
											感染	ProMed20050625-006(News.gov.hk)	保健省疾病予防センターは2例目のコレラ国内感染患者を確定。
											感染	ProMED情報(厚生労働省検疫所 海外感染症情報/詳しい情報)	コレラ, 下痢症, 赤痢 2005年更新 中国(情報源: XinHuaNet.com) 中国衛生部の8月10日の発表によると, 2005年7月の中国全土での感染症患者発生は27疾患390, 418人であった。香港(情報源: News.gov.hk) (WHOコレラ患者報告8/5-11(情報源: WHO Epidemiological Record, 12 Aug 2005 2005))
											感染	ProMED情報(厚生労働省検疫所 海外感染症情報/詳しい情報)	コレラ更新2005年 香港-インドネシア(情報源: News.gov.hk), WHO報告(情報源: WHO Epidemiological Record, 19 Aug 2005 2005)コレラの輸入患者が確認された。香港で4例目の輸入患者を確認した。この患者はインドネシアで発病し, 香港に8月5日に到着した。この患者の状態は安定しており, Princess Margaret病院に入院した。4例のうち, 1例は国内感染で, 2例は輸入例で, 1例は分類保留である。(2005年8月20日掲載)
											感染	ProMED情報(厚生労働省検疫所 海外感染症情報/詳しい情報)	コレラ, 下痢症, 赤痢 更新2005年 コレラ-中国(福建省)(情報源: XinHuaNet.com) 中国東部の福建省で2005年8月からコレラ患者が172名発見された。これはここ数年で最も多い。福州で2005年8月12日に最初のコレラ患者やG発見されてからこれまでに一人の死亡も出ていない。現在までに83名の患者が快復し, 病院から退院した。他の患者の容態は安定している。多くの患者が道端の小さな店でシーフードを食べたと書いている

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用指置	感染症(PT)	出典	概要
											感染	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報/詳しい情報)	コレラー中国(浙江省)(情報源: XinHuaNet.com, 10月9日)2005年8月2 5日に最初の患者が発見されて以来、2 005年10月8日現在、158人のコレラ 患者が浙江省東部の嘉興(かこう)(チ アシン)市から報告された。死亡患者は 報告されていない。72人が現在も入院 治療している。同市では水との関連が あり、腸管感染症流行がみられやすい 地域である。保健当局は、感染源は汚 染された水と食物であり、市民は個人 的衛生手段に注意を払う必要があると 述べている。
											感染	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報/詳しい情報)	原因不明の大量死-中国(四川省):情 報提供の依頼 ・情報源:新華社通信Xinhua Net, 7月 23日。 中国南西部四川省で過去4週間以内に 現地住民20名が原因不明の疾患に感 染し、うち9名が死亡したと州保健局が 2005年7月23日確認した。2005年6月24 日から7月21日までの間に資陽Ziyang 市の3つの病院では同様の症状を呈し た患者20名が入院した。7月21日までに 患者9名が死亡したが、1名は快復し退 院した。さらに10名の患者が治療を受け ており、うち6名は重症であると、省保健 局は原因不明の疾患、スィミングプルー 中国(内モンゴル):情報提供依頼 2005年7月末以来、内モンゴルの省都 のHohhotの公衆プールを使用した400 人以上の小児が発病した。Hohhotの プールは閉鎖されたが、73名の患者は 現在も入院している。一部の患者は皮 膚の発疹と発熱を呈している。中国衛 生部は、国内全土の衛生署に対し、ス ィミングプールの監視の強化を通知し た。 < <a href="http://www.alertnet.org/thenews/new&lt;br/&gt;sdesk/PEK204943.htm">http://www.alertnet.org/thenews/new sdesk/PEK204943.htm</a> > (2005年8月20日掲載)
											感染	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報/詳しい情報)	原因不明の疾患、スィミングプルー 中国(内モンゴル):情報提供依頼 2005年7月末以来、内モンゴルの省都 のHohhotの公衆プールを使用した400 人以上の小児が発病した。Hohhotの プールは閉鎖されたが、73名の患者は 現在も入院している。一部の患者は皮 膚の発疹と発熱を呈している。中国衛 生部は、国内全土の衛生署に対し、ス ィミングプールの監視の強化を通知し た。 < <a href="http://www.alertnet.org/thenews/new&lt;br/&gt;sdesk/PEK204943.htm">http://www.alertnet.org/thenews/new sdesk/PEK204943.htm</a> > (2005年8月20日掲載)



受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											炭疽	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報/詳しい情報)	炭疽, ヒト患者—中国(遼寧省) 情報源: Reuters 中国北東部で最近数週間発生している炭疽事例で, 1名が死亡し, 12名が感染したと国営メディアが8月7日に報じた。炭疽は2005年7月29日に遼寧省瀋陽市の郊外で発生したと新華社通信がウェブサイト上で報じた。8月5日時点でDamintun町では, 新規患者は過去5日間報告されておらず, 現地住民の生活も正常に戻った。患者11名は病院で治療を受け, 快復していると伝えられた。
											エボラ出血	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報/詳しい情報)	出血熱—中国(内モンゴル自治区) 情報源: 新華社通信Xinhua News Agency上のNorthern New Times記事, 6月28日。 内モンゴル自治区保健局は2005年6月27日, 今年自治区全域にわたる感染性出血熱発生率に関する状況を報告した。2005年1月1日から6月3日の間に内モンゴル自治区全域で総計187名の出血熱患者が報告されている。昨年同じ時期に比較して発生率は192.18%増加した。2名の死亡患者があり, 2004年同日時期(1名死亡)より100%増加 日本脳炎—中国: 疑い 情報源: South China Morning Postウェブサイト, 香港, 6月3日。 中国甘肅省と広西壮族自治区で2件のウイルス性脳炎流行が報告され, 100名以上の小児が感染し, 2名の死亡が報告された。この状況は全国規模での警報を発するほどには至らないが, 中国全土が日本脳炎流行のピークの季節に当たるため, 今回の流行により保健当局者は警戒を強めている。香港保健局広報官は2005年6月22日, 流行調査を 日本脳炎—中国: 疑い 情報源: Gansu Daily / Xinhua, 6月28日。 中国北西部甘肅省の都市天水Tianshui市小児における最近の脳炎流行は, 市感染制御予防センター長官Wang氏によれば, 一種のウイルス性脳炎である [Moderator注: 検査室診断結果のない純粋な推測である]。2005年6月24日に開催された地方保健当局による記者会見で, Wang氏は3月4日から6月23日まで天水Tianshui市内2つの病院では, 発熱と頭痛のため年齢1才から13才の小児を
											日本脳炎	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報/詳しい情報)	日本脳炎—中国: 疑い 情報源: Gansu Daily / Xinhua, 6月28日。 中国北西部甘肅省の都市天水Tianshui市小児における最近の脳炎流行は, 市感染制御予防センター長官Wang氏によれば, 一種のウイルス性脳炎である [Moderator注: 検査室診断結果のない純粋な推測である]。2005年6月24日に開催された地方保健当局による記者会見で, Wang氏は3月4日から6月23日まで天水Tianshui市内2つの病院では, 発熱と頭痛のため年齢1才から13才の小児を

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ベスト	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報/詳 しい情報)	ベストー中国(チベット自治区) ・情報源: XinHuaNet.com, 6月25日。 中国南西部チベット自治区Xigaze県 Zhongba郡におけるベストは制圧されたと、チベット保健局報告を引用して中国保健省が報じた。この流行でこれまでに5名が感染したと現地保健省当局者が2005年6月25日述べた。患者は6月13日から18日にかけて発生しており、うち2名が死亡した。 < <a href="http://news.xinhuanet.com/english/2005-06/25/content_3136079.htm">http://news.xinhuanet.com/english/2005-06/25/content_3136079.htm</a> > Disease Information 2005年7月1日号 Vol.18 No.26 米国における水疱性口内炎-Follow-up report No.8: 今回報告終了日-2005年6月26日 病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey アウトブレイクの初回確定日-2005年4月27日 アウトブレイクの発生日-2005年4月16日 新規アウトブレイクの概要 -Arizona州Navajo郡Taylorの農場(アウトブレイクの発生日: 2005年6月13日): ウマに1例、アライグマに1例、鹿に1例、豚に1例 Disease Information 2005年7月15日号 Vol.18 No.28 米国における水疱性口内炎Follow-up report No. 10: 今回報告終了日-2005年7月10日 病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey アウトブレイクの初回確定日-2005年4月27日 アウトブレイクの開始日-2005年4月16日 アウトブレイクの詳細 -Colorado州Delta郡Deltaの農場(アウトブレイクの開始日2005年6月28日): ウマに1例、アライグマに1例、鹿に1例、豚に1例、羊に1例
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE/World animal health situation / Weekly information / by date	
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE/World animal health situation / Weekly information / by date	

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE/World animal health situation/Weekly information/by date	Disease Information 2005年7月29日号 Vol.18 No.30 米国における水疱性口内炎-Follow-up report No. 11: 今回報告終了日-2005年7月24日 病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey アウトブレイクの初回確定日-2005年4月27日 アウトブレイクの開始日-2005年4月16日 新規アウトブレイクの詳細 -Arizona州Yavapai郡の農場(2件):ウマにおいて疑い例25例, 症例2例, ウシ(疑い例1例, 症例1例)等
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE/World animal health situation/Weekly information/by date	Disease Information 2005年8月5日号 Vol.18 No.31 米国における水疱性口内炎-Follow-up report No. 12: 今回報告終了日-2005年7月31日 病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey アウトブレイクの初回確定日-2005年4月27日 アウトブレイクの開始日-2005年4月16日 新規アウトブレイクの詳細 -Colorado州Mesa郡の農場(3件):ウマにおいて疑い例2例, 症例2例, ウシ(疑い例1例, 症例1例)等
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE/World animal health situation/Weekly information/by date	Disease Information 2005年8月19日号 Vol.18 No.33 米国における水疱性口内炎-Follow-up report No. 13: 今回報告終了日-2005年8月14日 病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey アウトブレイクの初回確定日-2005年4月27日 アウトブレイクの開始日-2005年4月16日 新規アウトブレイクの詳細-Colorado(以下C)州Archuleta郡の農場(1件):ウマ(疑い例4例, 症例2例), ウシ(疑い例2)等

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE/World animal health situation/Weekly information /by date	Disease Information 2005年8月26日号 Vol.18 No.34 米国における水疱性口内炎—Follow-up report No. 14: 今回報告終了日—2005年8月21日 病因の同定—水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey アウトブレイクの初回確定日—2005年4月27日 アウトブレイクの開始日—2005年4月16日 新規アウトブレイクの詳細—Colorado州Delta郡の農場(2件):ウマにおいて疑い例1例, 症例1例, ウシにおいて疑い例1例, 症例1例 等
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE/World animal health situation/Weekly information /by date	Disease Information 2005年9月2日号 Vol.18 No.35 米国における水疱性口内炎—Follow-up report No. 15: 今回報告終了日—2005年8月28日 病因の同定—水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey アウトブレイクの初回確定日—2005年4月27日 アウトブレイクの開始日—2005年4月16日 新規アウトブレイクの詳細—Colorado州Delta郡の農場(6件):ウマにおいて疑い例26例, 症例6例, ウシにおいて疑い例67例, 症例2例
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE/World animal health situation/Weekly information /by date	Disease Information 2005年9月16日号 Vol.18 No.37 米国における水疱性口内炎—Follow-up report No. 16: 今回報告終了日—2005年9月11日 病因の同定—水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey アウトブレイクの初回確定日—2005年4月27日 アウトブレイクの開始日—2005年4月16日 新規アウトブレイクの詳細—Colorado州Delta郡, Mesa郡, Moffatt郡, Montezuma郡, Montrose郡, Ouray郡 等

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE/World animal health situation/Weekly information/by date	Disease Information 2005年9月23日号 Vol.18 No.38 米国における水疱性口内炎-Follow-up report No. 17: 今回報告終了日-2005年9月20日 病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey アウトブレイクの初回確定日-2005年4月27日 アウトブレイクの開始日-2005年4月16日 新規アウトブレイクの詳細 -Colorado州Delta郡, Montezuma郡, Routt郡の農場(4件)(アウトブレイクの開始日2005年9月17日) 炭疽, シカ科Cervidae, 家畜-米国(テキサス州) 情報源: テキサス州動物衛生委員会公式ニュース広報, 7月6日。 テキサス州Sutton郡の飼育場2カ所でウマ, シカ, ウシの炭疽感染患者が検査室診断確定され, 家畜やシカの喪失が報告された同郡内その他の場所数カ所の検査室診断結果は検査中である。 (2005年7月9日掲載)
											炭疽	ProMED情報 (厚生労働省検疫所海外感染症情報/詳しい情報)	炭疽, ウシ-米国(ノースダコタ州) 情報源: 米国In-Forum, Fargo, 7月7日。 炭疽検知のため当局が2つのウシ集団を隔離。ノースダコタ州南東部Ransom郡Sheyenne峡谷のウシ集団で炭疽が発見され, 診断がノースダコタ州立大学で確定したことを報じる当局者のコメントなど。 (2005年7月10日掲載)
											炭疽	ProMED情報 (厚生労働省検疫所海外感染症情報/詳しい情報)	炭疽, ウシ-米国(ノースダコタ州) 情報源: The Horse.com。 2005年7月14日時点で, ノースダコタ州南東部にある11施設で, バイソン(野牛), ウシおよびウマでの炭疽症例が確認されている。今回の流行では, 家畜約30~35頭が炭疽に感染した。全症例がRansomおよびBarnes郡で発生した。 (2005年7月19日掲載)

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文獻	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											炭疽	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報/詳しい情報)	炭疽, ウシー米国(ノースダコタ州) ・投稿者: Susan J. Keller, DVM(ノースダコタ州獣医官)。 ノースダコタ州当局は現在, 8郡内の56施設で炭疽症例を確認している。今年の夏季中に炭疽により死亡した家畜の頭数はまだ明らかになっていないが, 現時点で200頭を越えていると推測している。症例が発生している種は, ウシ, ウマ, バイソン, 飼育されているシカ類, ヒツジ, ラマである。 ・投稿者: Dr. Neil Dyer(ノースダコタ州立大学獣医学診断研究所)
											炭疽	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報/詳しい情報)	炭疽, バイソン, ウシー米国(サウスダコタ州) ・情報源: サウスダコタ州獣医官Dr Sam Holland獣医学博士記者発表, 7月21日。 州獣医官はサウスダコタ州Northwestern Sully郡の牧草地で大型バッファロー[Plains Bison]と家畜の間で炭疽が発生したと報告した。2005年7月20日州獣医官が臨床検体を採取し検査室に持ち帰り 診断は7月21日に確定 炭疽, バイソン, ウシー米国(South Dakota) 情報源: Principles and Practice of Infectious Diseases Online, 6th edition 州獣医官Sam Hollandから提供されたデータおよび情報。流行の始まりに気づいたのは, 660頭の牛とバイソンの群れが7月18日に死亡しているのが最初で, 7月20日に流行が確認された。それ以後155頭が死亡した。 (2005年7月30日掲載)
											炭疽	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報/詳しい情報)	炭疽, バイソン, ウシー米国(サウスダコタ州) 投稿者: Sam Holland (DVM, サウスダコタ州獣医官)。 2005年7月18日にバイソン(野牛)と肉牛の群れで炭疽症例が診断されて, 今年の炭疽シーズンが始まった。これまでに, 検査により37群で炭疽症例が診断されている。炭疽による死亡頭数は野牛, 肉牛合わせて330頭に達した。サウスダコタ州の炭疽症例発生マップが掲載されたウェブサイトの紹介 ( <a href="http://www.state.sd.us/aib">http://www.state.sd.us/aib</a> )など。 (2005年8月18日掲載)